

# 3.11 ～命と防災について考えよう

令和4年3月11日  
舞鶴市立和田中学校  
健康安全教育部

今から11年前の2011年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖を震源とする大地震が起きました。この地震は震度7という強い揺れに加えて大津波を発生させ、東北から関東に至る広い地域に深刻な被害を与えました。

被災地では、民家や学校、商業施設、工場だけでなく、街そのものが破壊され、死者は1万5900人に上ります。また、現在でも2523人の行方不明者がおられます。

無事に避難ができて助かった人も、住んでいた家や働いていた職場、通っていた学校を失ったりして、人生に大きな影響を与えられました。いまだに以前の生活を取り戻せない方々も数多くいます。大震災の爪痕は日本各地の多くの人に深く刻まれています。



11年たち、震災の記憶がないか震災後に生まれた子ども達が増えてきています。みなさんはこの東日本大震災をどのようにとらえていますか？

あの日、地震・津波・原発事故がおそった東北の地には、みなさんと同じ中学生もたくさんいました。震災によって、昨日まで一緒に授業を受けていたクラスメイトを失い、大切な家族を失い、家や学校という居場所を失い、故郷を失い、命を失いました。地震発生時はちょうど、卒業式の練習をしていたり部活動に励んでいる時でした。



災害はいつ、どのような形でやってくるかわかりません。もしも今、大きな地震が起こったらあなたはどのような行動しますか？今なにもなくても、「いつか来た時」のために備えはできます。

大災害が発生したら、まず、自分の命を守り、次に、身近な人を助け、さらに避難所の運営など地域に貢献することが大切です。自分の命を守ることはもちろん、身近な人を守るために、そして、周りのだれかを支えるために、中学生のみなさんには、どのようなことができるでしょうか。今の自分にできることを学び、将来の自分にできることを考えていきましょう。

## 防災トピック

### 釜石の奇跡と「津波てんでんこ」

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災において、大津波の被害に遭遇しながらも小・中学生約 3 千人のほとんどが助かった地域がありました。それが岩手県釜石市です。

海岸からわずか 100 メートルのところにある釜石市立鶴住居小学校では、最初、校舎の 3 階に避難しましたが、隣の釜石市立釜石東中学校の生徒が校庭に走り出ているのを見て、小学生たちは自主的に中学生のあとを追い、避難場所であるグループホームに逃げました。すると間もなく、グループホームの裏山が崩れたので小・中学生たちはすぐにまた高台の介護福祉施設、さらにその上の石材店まで逃げたのでした。その後津波は堤防を越え、鶴住居小や東中、グループホームにまで押し寄せましたが、小・中学生たちは全員無事でした。

この「釜石の奇跡」を起こしたのは、「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先して避難せよ」という「避難三原則」でした。釜石市では昔から津波対処の言い伝えとして「津波てんでんこ」の教えがありました。これは「津波が襲ってきた時には、一人一人が一目散に走って高台に逃げよ」という意味で、こうした先人の教えが今の時代にも生きているのです。



釜石市の子どもたち・地域住民の避難の様子 東京大学片田研究室 提供

「釜石の奇跡」について詳しく知りたい人は こちらを見てみてください。

総務省消防庁 HP

「防災危機管理 e カレッジ-3 . 釜石の奇跡」

<https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/ippan/cat/cat1/cat/post-12.html>

炊き出しの手伝い



震災時、避難所の運営や復旧ボランティアをする中高生がたくさんいました。

## 防災トピック

### みんなのために ～3.11 中・高生の活躍～

東日本大震災当日、都立高校 8 校（工芸高等学校、竹台高等学校、浅草高等学校、三田高等学校、芝商業高等学校、本所高等学校、第一商業高等学校、戸山高等学校）の高校生 356 人は、自らも帰宅困難な状況となりながら、自校に集まった都民等のために、ボランティア活動に取り組みました。

高校生たちは、毛布やマット、飲料水を配布したり、食事の用意や配膳をしたりするなど、自分たちができることを行いました。

また、区立中学校 4 校（港区立港陽中学校、新宿区立新宿中学校、杉並区立高円寺中学校、北区立明校中学校）でも、中学生が備蓄倉庫から毛布等を運び出したり、炊き出しの補助をしたりしました。



国道 15 号、品川駅付近（午後 7 時 15 分）



炊き出しの手伝いを行う高校生のボランティア。 (釜石市の記録)

東日本大震災の復興ニュースも徐々に減り、被災地の実情を知る機会が少なくなってきました。しかし、震災からの復興は今現在も道半ばです。現地に行くことはできなくても、新聞やインターネットなどで関連記事を読み、東北で復興のために頑張っている人、震災によって心や体に傷を負いながらも懸命に立ち向かっている人たちに思いをよせ、家族や友達と過ごす時間の大切さや幸せを考える機会としてほしいと思います。コロナ禍で人とのつながりが途切れがちな今だからこそ、つながり続ける人々の思いを知ってください。

### ～家族と話そう～

家の中で大きな揺れにおそわれたとき、身を守るためにどうしますか？

家の中で上から物が落ちたり、倒れたりして危険な場所はありませんか？

家の近くで避難場所として指定されているところはどこですか？

家族がバラバラの場所にいた時、待ち合わせる場所や方法は決まっていますか？

いざという時の防災道具はそろっていますか？

気仙沼市で震災にあった中学 3 年生の卒業式での答辞を紹介します。くじけそうな時に勇気をくれる言葉です。

はしかみ 階上中学校と言えは防災教育と言われ、内外から高く評価され、十分な訓練をしていたわたくしたちでした。しかし、自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、わたくしたちから大切なものを容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というにはむごすぎるものでした。辛くて悔しくてたまりません。しかし、苦境にあっても天を恨まず運命に耐え、助け合って生きていくことがこれからのわたくしたちの使命です。

<https://www.youtube.com/watch?v=LNU7ovLKZWc>